

## 広島県西部周辺の活断層（その2）

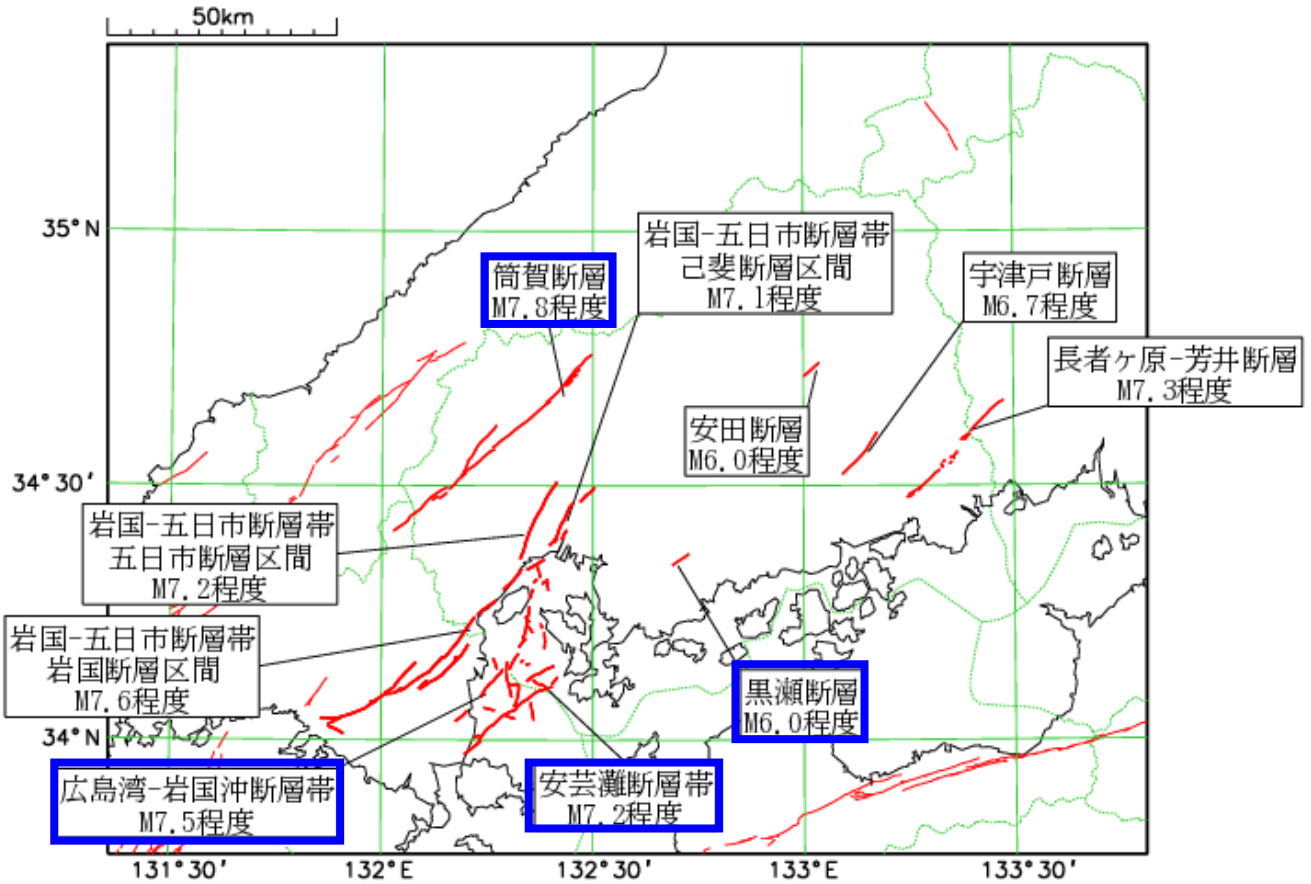


図 広島県周辺の活断層分布図

活動区間・活動規模M（マグニチュード）は地震調査推進本部の評価による  
（図中の細線は、地震調査研究推進本部の長期評価による活断層を示す。）

活断層：安芸灘断層帯  
地震の規模：M7.2程度  
地震発生確率（30年以内）：0.1%～10% S\*ランク  
地震後経過率：0.6～2.4  
平均活動間隔：2,300～6,400年程度  
最新活動時期：約5,600年前以後～約3,600年前以前

活断層：広島湾～岩国沖断層帯  
地震の規模：M7.5程度  
地震発生確率（30年以内）：不明 Xランク  
平均活動間隔：不明  
最新活動時期：不明

活断層：筒賀断層  
地震の規模：M7.8程度  
地震発生確率（30年以内）：不明 Xランク  
平均活動間隔：不明  
最新活動時期：不明

活断層：黒瀬断層  
地震の規模：M6.0程度  
地震発生確率（30年以内）：不明 Xランク  
平均活動間隔：不明  
最新活動時期：不明

○地震発生確率が一般・自治体の方々には分かりにくいこと、または、低く捉えられるおそれがあることから、活断層のリスクを正しく理解していただき、適切な防災・減災行動につながるように、長期評価の広報資料に確率に基づくランク分けを導入しています。活断層で発生する地震については、今後30年以内の地震発生確率が3%以上を「Sランク」、0.1～3%未満を「Aランク」、0.1%未満を「Zランク」、不明（すぐに地震が起きることが否定できない）を「Xランク」と表記しています。

○地震後経過率：最新活動（地震発生）時期から評価時点までの経過時間を、平均活動間隔で割った値。最新の地震発生時期から評価時点までの経過時間が、平均活動間隔に達すると1.0となる。

令和4年1月13日地震調査研究推進本部・地震調査委員会

「活断層及び海溝型地震の長期評価結果一覧（2022年1月1日での算定）」資料より